

## 第1回 丹沢大山ハイキング

第5支部 東邦化成(株)

幹事 磯部 進

平成11年10月31日 曇り

10月31日、東塗商ハイキング同好会の初のハイキングを実施しました。午前9時、小田急伊勢原駅に集合したのは、第1支部から内田さん、森山さん、井上塗料の小野寺さん、幹事の乾さん、第5支部から小川さんと私の6名でした。メンバーは第1支部と第5支部に偏ってしまったのが残念でした。

大山は丹沢国定公園の東に位置し、そこにある大山阿夫利神社は第十代崇神天皇の頃(紀元前97年)の創建と伝えられ、祭神には大山祇命(おおやまつみのみこと)と言って、山をつかみ取る神です。奥の院には大雷神を祭り、石尊社と呼ばれ、御神体は山頂突起にあると云われる石で、日本武尊が蝦夷征伐の時に、岩の上に腰をかけて休んだ石であると伝えられています。江戸時代中期頃には、大山参詣は女人禁制である上、いつでも参詣をして良いのではなく、毎年7月と8月に限って登山が許されていたそうです。

さて、多少雲が多いのが気になりましたが、全員元気にバスに乗り換え、細い道を猛スピードで、終点の大山に向かいました。バスを降り、両側に店が立並ぶ参道のゆるい階段を登り始めました。大山ケーブル追分駅(標高400m)まで約500m所要時間数分でしたが、早くも息切れするメンバーが出てきました。ケーブルに乗り換え、標高差278mを、定員オーバーが心配な位の人を乗せ、大山阿夫利神社下社駅(標高678m)に5～6分で到着しました。

早速、大山阿夫利神社下社に参拝、本日の安全と商売繁盛を祈願した後、神社脇の猛烈な急石段を登り始めました。またしても息切れするメンバーが続出していました。石段の上り口に1丁目の表示があり、頂上奥の院(標高1252m)が28丁目になっています。標高差574mを一気に登る訳ですが、先が思い知らされる始まりでした。5分位登っては休むを繰り返していましたが、山頂までは一本道、AクラスとBクラスに別れて登ることとなりました。

あいにくの曇り空で、視界は優れませんでした。返って気温が上がらず、快適でした。Aクラスに遅れること4～50分で、Bクラスもへろへろになりながら山頂に到着し、熱い紅茶を飲みながら軽い昼食を済ませ、一路下山しました。

下山も待ち合わせ場所を予め決めておいたので、こちらもAクラスに遅れること40分でBクラスが到着し、更に、岡村さんが箱根からの帰りに合流され、計7人で反省会を兼ねながら、ビールと地酒で豆腐料理をいただきました。

大山は、別名雨降山と言います。その字のごとく雨を呼ぶ山であり、すばらしい石清水にあふれています。このような環境から豆腐が名物となったのでしょうか。反省会でいただいた豆腐料理は7品のコースでしたが、様々に調理されていました。そして、バスに乗り、あたりが薄暗くなる頃、伊勢原駅に眠りながら到着、座れるように厚木で始発電車に乗り換え、揺られながら全員無事に帰着しました。参加者の皆様、お疲れ様でした。

11月の理事会では参加メンバーの一人も筋肉痛がなかったとお聞きしましたが、その割にはペースが遅すぎではなかったかと思いました。今回はあくまで、メンバーの脚力を調査することになり、次回から更にハードにして行けたらと思っております。（嘘です）。幹事として、会員の皆様が、気軽に参加できるよう、今後も企画していきたいと思っています。